



## 安積高校SSH第Ⅲ期が始まります！

1年次の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは安積高校のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）第Ⅲ期1年次の入学となります。これまで先輩方が重ねた実績が認められての指定になるとともに、今年度から始まる「文理融合基礎枠」での指定となっています。

研究開発課題は「**チーム安積モデルによる地球学的課題解決に向けた国際共創力を有する科学技術系リーダーの育成**」で、理数系カリキュラムの開発のみならず、自然科学と人文・社会科学を融合させながら「総合知」の観点から探究活動のさらなる充実を目指し、実践を進めます。

2・3年次の皆さんは、基本的にはこれまでの第Ⅱ期で進めてきた活動を継続していきますが、第Ⅲ期の内容に発展させた方が効果が高まると考えられる部分があれば第Ⅲ期に合わせて改善していきます。また、本校の特色といえる「SSHシニアサポートネットワーク」についても、卒業生の皆様の力を借りて、皆さんの探究活動がより深化するように継続していきます。

各種SSH事業や海外研修等についても今後情報発信をしますので、積極的に取り組みましょう。



本校学校WEBサイトの中に、SSHのページがあります。SSHでの取組の様子は実施後に紹介されます。

### ◎イベント及び大会等周知 Classroom

本校SSHには様々な企画や大会等の案内が届きます。その告知用のGoogle Classroomを開設してあります。全般用は、

、国際交流関係は、  
です(校内生のみ)。ぜひ登録を。

## 140期の新入生の皆さんに向けて

### 「140期の皆さんへ」

140期の皆さん、まずはご入学おめでとうございます。安積高校は皆さん知っての通り県内でも有数の進学校です。そんな安積高校に入学した皆さんはきっと優秀なのでしょう。しかし、高校の勉強は中学の時のようにやさしくはありません。下の方でくすぶるも、結果を残すも自分の勉強次第です。コツコツと勉強し、精進を怠らなければ自分の目指す将来に近づくことが出来ます。

また、安積高校はSSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校となっています。1年次のSS探究Iでは、私たちのときとは少し異なり、「地域共創探究」というテーマで探究活動を進めるようです。フィールドワークをしたり自分達の意見をまとめたり、そしてポスター発表など、ここでしか得られない学びや経験があるはず。ぜひ自分の興味のあることに全力で取り組んでください。



より良い学校生活を送れるよう、勉強はもちろん部活動や学校行事なども全力で！

139期 2年5組 H (須賀川二中)

### 「140期の皆さんへ」

まず初めに、受験を制した140期の皆さん、ご入学おめでとうございます。在校生一同皆さんの入学を歓迎します。まだわからないことが多く、不安なことが多い中だとは思いますが、私たちの学校のことを知っていただくためにここでは本校SSHの活動について少し紹介します。

安積高校では科学技術系のリーダー育成を目的として様々な教育プログラムを設置しています。一部ではありますがその活動例を挙げると、少人数ゼミ、SSコース(クラス、現在は3年7組と2年7組)という高度な知識や技能を育成する教育課程の編成、他地域のSSH指定校との交流(138期は富山中部高校など)、ドイツ・フランス・タイなどへの海外研修等、多岐にわたります。

さらに本校はSSH第Ⅲ期の指定をいただきました。テーマは「チーム安積モデルによる地球学的課題解決に向けた国際共創力を有する科学技術系リーダーの育成」です。今回は文理融合基礎枠での採択とのことなので、皆さんには今までにない形で、様々な見地から研究に取り組んでほしいと思っています。

138期 3年4組 K (郡山二中)

裏面につづく

# 競技科学をやってみよう！

国際科学技術コンテストに関する  
本校生徒が主催する学習会の案内



科学オリンピック

本校SSH第三期は、第二期と異なり文理融合型SSHになりました。本校の昨年度の「オリンピック」関係の成績は、IChO(化学)日本代表候補最終選考や2年連続JPhO(物理)・JMO(数学)通過、JBO(生物)やJESO(地学)の多数参加、科学の甲子園県大会筆記2位など、着実に実績が伸びています。

また昨年度からIOAA(天文・天体物理)、IEO(経済)への日本代表派遣が始まり、世界大会に派遣するオリンピックは12部門となり、「文系」においても地理、経済、倫理・哲学、言語学の4部門があります。JGeO(地理)は校内対策会を毎年行うため、参加しやすいです(3年連続二次試験進出、銅メダル2回)。エコノミクス甲子園や情報、哲学、言語学など、友達と挑戦するというのも良いですね。

オリンピック本選への出場はハードルが高いかもかもしれませんが、実際に挑戦することで可能性が拓かれます。大会成果が入試における総合型選抜や特別枠の設けられた大学進学に繋がったり、大会会場や勉強会などで他校生との交流ができ特別な仲間意識を育めたりすることも魅力的です。受験期だけでなく、大学進学後にも良い影響があるとOBよりお聞きしています。またそれだけでなく、その学問独自の魅力を知れることで、新たな道が開けることがあるかもしれませんし、学問の本質部分に迫ること自体に意味があるといっても過言ではありません。



皆さんも文理問わず、様々な大会に積極的に参加してみませんか？140期生も、139期生も、138期生も興味がある方の加入、是非お待ちしております！

競技科学研究会 代表 3年7組 W (郡山六中)

## ▼ 教科系コンテスト

-  日本数学オリンピック  
国際数学オリンピック (IMO)
-  化学グランプリ  
国際化学オリンピック (IChO)
-  日本生物学オリンピック  
国際生物学オリンピック (IBO)
-  全国物理コンテスト  
「物理チャレンジ」  
国際物理オリンピック (IPhO)
-  日本情報オリンピック  
国際情報オリンピック (IOI)
-  日本地学オリンピック  
国際地学オリンピック (ESO)
-  科学地理オリンピック  
日本選手権  
国際地理オリンピック (IGeo)



詳細は国立研究開発法人科学技術振興機構 次世代人材育成事業(JST) WEBサイト内を参照。

## 本校SSH探究活動発表会・成果報告会を振り返って①

2月の初めに安積高校SSH探究活動発表会・成果報告会が行われました。今回は1・2年生とも全ての班がポスター発表をするため、どの班も探究内容についての話し合いや発表練習を重ねてきました。

探究活動の成果を伝えるため、どの班においても、発表の仕方を工夫し、聴衆を意識した発表をする姿が見られました。当日は回数を重ねる毎に反省点を活かした発表ができたと思います。発表後の質問にも、班内で協力し、できる限りの回答を心がけました。また、他の班の発表を聞いて、ポスターのまとめ方や発表の仕方など、学ぶことも多くありました。

今回の発表を通して、人前で発表することの難しさを改めて感じました。反省点は、7月上旬に行われる予定の「最終発表会」に活かします。



138期 3年5組 O (中島中)

## 今後のSSH関連行事の予告等

### ◎各クラス探究係への連絡 全年次・クラスの探究係は、

に集合してください(各クラス1人でも可)。ただし、この日が応援歌練習予備日に設定されているので、その日程次第で変更もありえます。その際はまた連絡します。

### ◎SSH通信・WEBサイトについて

今年度も本校SSHの取り組みや成果を、校内のみならず外部にも広く発信していきます。各クラスの探究係やSSコース(クラス)の皆さんを中心に、生徒・教員みんなで作り上げていきます。ご期待！

### ◎海外研修の概要説明・セレクション

今年度の海外研修・国際交流については、後日概要をお伝えしますが、昨年度渡航した「ドイツ」「フランス」「タイ」については次年度以降の渡航を検討しており、それらの国については本年度は海外からの訪問受け入れをしていく方向です。一方渡航については、SSH第三期の計画にある「インド海外研修」に向けて準備を進めています。セレクション(参加者選考会)の日程は未定ですが、「文理融合基礎枠」であることを意識した選抜になると思いますので、希望者は今後各クラスに配布される掲示物やSSH通信の内容をしっかり確認していくとともに、「自分の特技・強み」を磨いておきましょう。

### ◎京都女子中学校3年生との対面及びオンラインでの交流の参加者募集

の時間帯に、同校中学3年生の40名程度が、修学旅行の一環で来校します。「医療系への進学を目指す京都の私立中高一貫の女子中学生」と、高校生ではありませんが、昨年度からの中高一貫化に向けて、昨年から中学校との交流も進めています。

今回の交流のテーマは「震災復興」や「医療」、「放射線」で、本校からの参加者は10名程度を想定しています。

海外研修経験者や、医療についての関心の高い人、震災復興の学びに積極的に取り組んできた人などが中心になると思いますが、年次は問いませんので参加希望者は、次のGoogle Classroomコード、

に登録するか、大職員室奥「探究班」コーナーまで来てください。

### ◎「未来の科学技術を担う人材育成のための少人数ゼミ・少人数ゼミ」

今年度の第1回は、5月中・下旬の放課後に開催する予定です。昨年度はエネルギー、災害医療、理数教育、国際紛争・交渉、SDGs、環境政策、人工知能、天文学、ヨガ科学、農林水産業など、幅広い分野の先生方を講師としてお呼びし、「少人数」でのワークショップを中心に実施しました。今年度も引き続き各界からの講師をお呼びする予定です。